

# 六親講を考える ①

昨年は「無縁社会」という言葉が流行語になりました。いやな時代です。社会は今、血縁や地縁といった絆をなくしてしまつたのでしようか。私たちが地域で共に生きるうえで約束や智恵について、根本から考えなおさなくてはならない時期にきているような気がします。

【参加者】

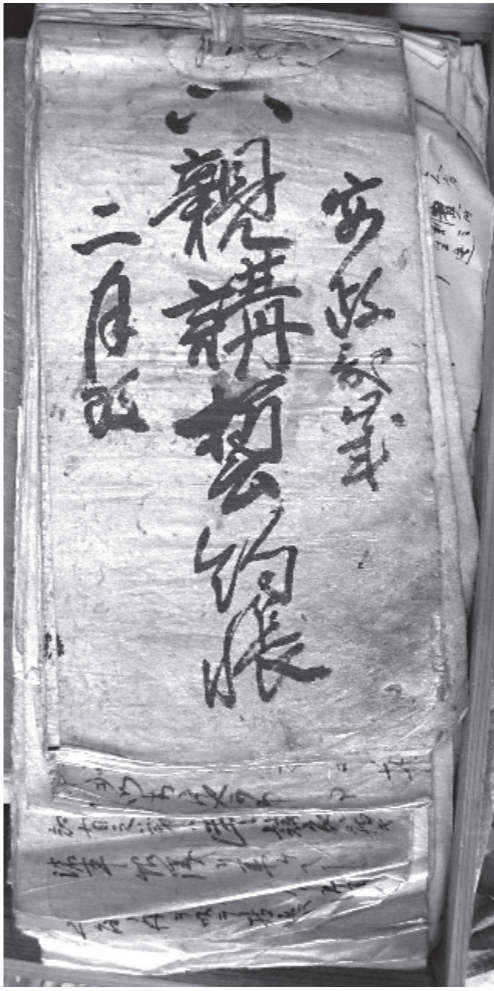
菊地和一(町区睦親講顧問)、田生正則(谷地中睦親講)、副任職

正恵 一月九日に中埜町の六親講の総会があつて出席してきました。今回、講長さんをはじめ三役の交替

があつたんですね。その意見交換のなかで若い人が、「六親講の意味はわからないが、代々続けてきたも



町区睦親講の書類箱を広げる高橋喜雄さん(上)。一番古い書類が左。「安政戊午年(1858年)六親講誓約帳、一月改」と書いてあります。



のをやめる必要はないんじゃないか」と発言していました。私は「切れてはいないな」と思い、ホッとすると同時に、六親講の意味と役割を確認する必要があるなと感じました。

私も意見を求められたので前講長の高橋喜雄さん(のぶお)からいつか聞いた六親講の起原についてお話ししました。

《昔、ここに最初の一族が入ってきた。その一族に子、孫がで、縦の血縁がのびていく。別の家の者と結婚しないかぎり子孫は増えていかな

いから横のつながりもできてくる。村が大きくなるにつれて別の家族が住み着けば、更に関係はふくらむ。縦横の均衡を保ち、絆をしっかりと

たものにするために約束が必要になってくる。この集落ではこのようにしよう」と決めたのが契約講

六親講のはじまりさ。高橋喜雄さんはそのように言っていました。

和一 そうだね。あと、みんな貧乏だったから。困ってる人だちを互いに助けるって役目もあったと思う。昔は不幸が出ると米を一升ずつ持ち寄って集まったんだよ。

正則 米は貴重なもんだつたし自分の家で食ふのでやつとだつたからね。講中で不幸が出ると自分たちが食ふぶんは自分たちで持つて行つたのさね、というか余計に。そして遠くから来た人たちにも馳走した

聞いておいたほうがいいね。正則 そうだね。天台持ち」は、本家筋が持つんだが、わらじ脱ぎ場だつた家が「天台持ち」の場合もある。今こうしてある我が家の先祖の、水先案内をした家はどだつたのかを忘れない。大事なこつたね。

正恵 法事でお経をあげると最後に必ず回向(えこう)という文言をつけます。その回向に「六親眷属七世の父母に回向す」というフレーズが出てくるんです。訳すと「今あげたお経は誰々さま(法名)のために、そして六親等に及ぶ親類縁者、七代もさかのぼつてご先祖さまに手向けます」という意味なんです。これはルーツをぶれさせない凄(こた)い言葉だと思いませんか。(六親講という講名はたぶんここが出どころじゃないかと思つているんですが)今の若い人も自分の家のルーツを知っていると、ぶれないと思つてますよ。

和一 あるよ。まず四門。「竹とつて来い。いいのとつてこいよ、なん

とこで和一つあんは道具こしえはしたことがあるんですか。

正則 「お寺や親戚関係は勿論として」まず六親講の講長さんに連絡することだね。そして「こんなわけで親が亡くなりました。お願いします」

一「一言言つて頭を下げる。あとは講の人が動いてくれる。役場に誰行く? お寺に誰行く? 道具こしえは? みな段取りしてけんのだから。」

正恵 頭をさげて「お願いします」と一言言つて大切なんですね。正則 そのために、講長さんの名前と構成員の名前は覚えておきたい。大きな六親講だつたら、あなたの班(隣組)の構成員くらいは普段から確認しておきなさい、とアドバイスしたいね。



田生 正則さん (62歳)

わけつさ。そのなごりが今、火葬のときにおにぎりを炊き出しみたいにして行くんだと思うの。

昔、個人の家では「まかないぶん」しか持つていなかったのは確かだね。で、お膳、お椀は六親講が持つてた。今、無用の長物になってなじよしたらしいべつて、しましてつてつと、昔は葬式、法事、結婚式、良いお膳をみんな回して使つた。んだからお膳小屋があつた。いろいろな資料を講として持つていたんです。

正恵 最低限の社会資本をそろえていたということですね。

## 略しちやいけない

正恵 和一さんが先日の六親講総会のときに赤間光夫さんから聞いた話。あれをもう一度してください。

和一 俺は親が早く亡くなつたもんで、赤間光夫さんや高橋英一さん、地域の先輩と何十回も酒を飲んだ。んで、「お寺もや、他所では簡単にやつてんのに、なにもあいなぐすつことねえべつちやや」と言つたこと

ぼたくたつていいがらな」って先輩に言われでね。あと提灯を持つ竹。ロウソクを立てる竹は細いのでいい。さあ、どつさりどつてくるやつもいれば半分しかとつてこないやいながらね。天台(たいたい)も十五、十六年前まではワラでこしらえた。田尻(たじり)行つて、墓標も買つてきた。作業場では、東海長一さん(東海晃夫さんの父)が、大工さんだつたが、連れてこられてカンナかけ始まんたおわ。

正則 俺も実家にいたとき、棺箱作り見たよ。「曲尺(かまど)使つてダメだぞ」と長老が言う。寿命を測るな、という意味だつたのかなあ。大工さんは勘(かん)でやつたかと思つよ。

和一 大哲(おほさとし)も買った。それを女だちが座敷(ざしき)にいで、パツパツと裁つて死装束(しそうぞく)をこしえた。鎌田(かまの)のぼんつあん(鎌田和夫さんの母親)がうまくてなあ。やつぱり物差(ものさし)は使わないで「手つもり」でやつたつたね。

住職 女の人が線香(せんこう)をあげつさ行くど、その女の人が講中の女性(むすめ)でなくとも、死装束縫つてるところに行つて、「ひと針縫(ひとはりぬい)わせでけらいん…」加(か)わらせでもらつた。

和一 そいなくしてみんなで送つたんだおね。(つづく)



菊地 和一さん (75歳)

## まず頭を下げる

正恵 ある家の家主が亡くなりました。三十代の息子がいます。六親講にお世話にならなければなりません。彼(か)が心得(こころえ)しておくべきことは?

正則 「お寺や親戚関係は勿論として」まず六親講の講長さんに連絡することだね。そして「こんなわけで親が亡くなりました。お願いします」

和一 「一言言つて頭を下げる。あとは講の人が動いてくれる。役場に誰行く? お寺に誰行く? 道具こしえは? みな段取りしてけんのだから。」

正恵 頭をさげて「お願いします」と一言言つて大切なんですね。正則 そのために、講長さんの名前と構成員の名前は覚えておきたい。大きな六親講だつたら、あなたの班(隣組)の構成員くらいは普段から確認しておきなさい、とアドバイスしたいね。

なんのために六親講があるかについて、その家だけでは大変だから講で手伝(てづか)うのであつて、「俺(おれ)家で誰もいなくなつて、会(あひ)さも出(で)らいねがらやめます」「はい、わかりました」と受け取る講があるつて最近聞(き)くが、受け取ること自体、俺(おれ)は間違(まちが)つてい

ると思う。会(あひ)に出(で)らいねどきは出(で)らいねでいいの。「なにかあつたどきは相談(さうだん)しつて来てけらいん」…そういう柔(な)らかくて壊(こ)れにくいつながらが地域のなかで昔(むかし)から続(つ)いてきたんだつちや。今(いま)その家で困(こ)つたことがあつたら余計(よけい)お世話(せわ)をしてやんねぐねつちや。昔(むかし)は逆(さか)にお世話(せわ)をしてもらつたかもしれない。そこを今の若い人(わか)にわかつてもらいたいし、そのところさえわかつていれば六親講(ろくしんこう)は負担(ふたん)でもなんでもない。

和一 「天台(たいたい)持ち」がどこかお親(おや)に